

## 都の都ジャンプアップ事業 for 2013

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：東北大学（総括責任者：井上 明久）

### プロジェクトの概要

#### (1) 新規養成女性研究者の採用計画

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
理学系	2 名	2 名	1 名	3 名	1 名
工学系	4 名	2 名	6 名	1 名	1 名
農学系	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名

#### (2) 女性研究者養成のための取組内容

沢柳フェローとして総長が任命した女性教授をメンターに充当する。各研究分野の動向を熟知している部局メンターも充当し、複数メンター制による助言・指導体制を確立する。

- ①世界トップクラス研究リーダー養成プログラム：異分野融合力アップ、組織・研究マネジメント力アップ、研究実務能力アップのセミナーを行い、各能力の向上を図る。
- ②新ネットワーク創生プログラム：女性研究者のための情報を共有・発信するとともに、積極的に研究を外部へ発信し、女性研究者が研究を先導できる研究体制の確立につなげる。
- ③ワークライフバランス支援プログラム：ワークライフバランスに関するセミナーやワークショップを行い、現在の制度等の周知や男性も含めた男女共同参画の意識啓発を行い女性研究者の研究スタイルの確立を支援する。

#### (3) 期待される効果

理・工・農学分野における女性研究者数の増加。女性研究者の能力及び職階のジャンプアップ。異分野融合による新たな学問の創出。男性も含めた全学の男女共同参画意識の醸成。

#### (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	女性研究者 支援システム 改革状況	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	s	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

女性研究者の採用促進のみならず、研究能力及びリーダーシップを高める取組に重点を置いており、世界トップクラス研究リーダー養成プログラムを中心とした女性リーダー育成システムを構築し、研究業績の向上、研究プロジェクトリーダーの育成につなげている。

- ・**進捗状況**：女性研究者新規採用については、平成 22 年度までの目標を達成しているが、東日本大震災の影響により平成 23 年度の目標は現時点で未達である。しかし、自主財源による女性研究者の独自採用を進めたことにより、機関全体としては理工農学系分野の女性教員数が 40%増

となっていることは、高く評価できる。また、女性研究者の研究業績数の増加、女性研究者の特性を生かした異分野融合領域研究の立ち上げなどの目標も達成していることは、高く評価できる。

- **女性研究者支援システム改革状況**：沢柳フェロー（女性教授メンター）と部局メンターによるメンター制度、世界トップクラス研究リーダー養成セミナー等の取組により、女性研究リーダーを育成するシステムを構築し、成果を上げていることは評価できる。
- **取組の内容**：メンター制度及び女性研究者のための WEB ネットワークシステムの構築、自主財源による育児・介護支援、男女共同参画の意識啓発のためのセミナーの開催等、適切な計画の下に実施した取組は妥当と評価できる。
- **実施体制**：理事のリーダーシップにより全学体制が構築され、女性研究者育成支援推進室を中心に、部局及び事務局の協力体制の下、着実に取組が推進されたことは評価できる。
- **今後の進め方**：事業終了後 8 年間の目標を定め、大学院博士課程の女子学生比率を教員の女性比率に反映させる計画を立案している点は評価できる。